

稻原勝治 いばら かつぢ 評論家。明治十二年鳥取縣生れ（二八〇一）。アメリカの留學卒。來朝してハフレデリック・スタールの通譯として隨行、その著『山陽行脚―附東海道行脚』（大正六年九月十八日金尾文淵堂）を總譯として東京の『朝日新聞』に連載、好評を得た。その後外務省を經て、並又『東京日日新聞』編輯長、日本外華協會常務理事等歴任。著書に『蘭國の倫敦より』（大正八年七月二十一日外交時報社出版部）、『英國を中心として』（大正十年五月一日金尾文淵堂）、『不史なる世界―戰後外交の歸趨』（大正十二年六月二十日大阪毎日新聞社・東京日日新聞社）、『民族外交の顔』（合著・竹内實積編、昭和十五年七月十五日福倉書房）、『アメリカの民族圈』（昭和十八年七月十五日龍吟社）等。

